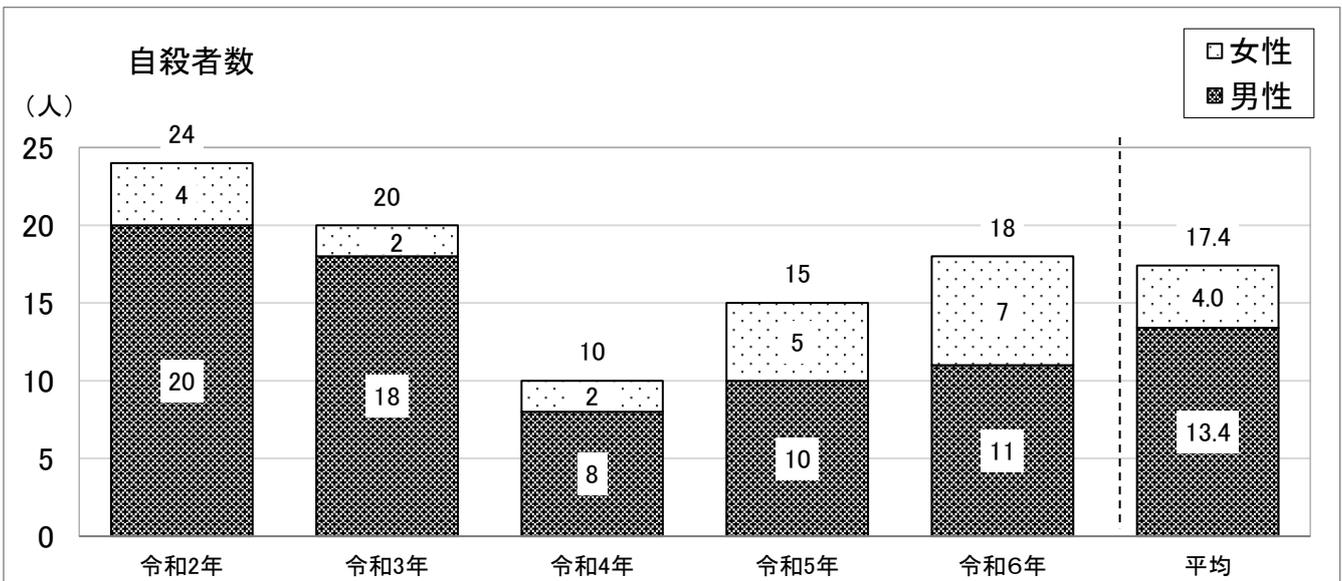


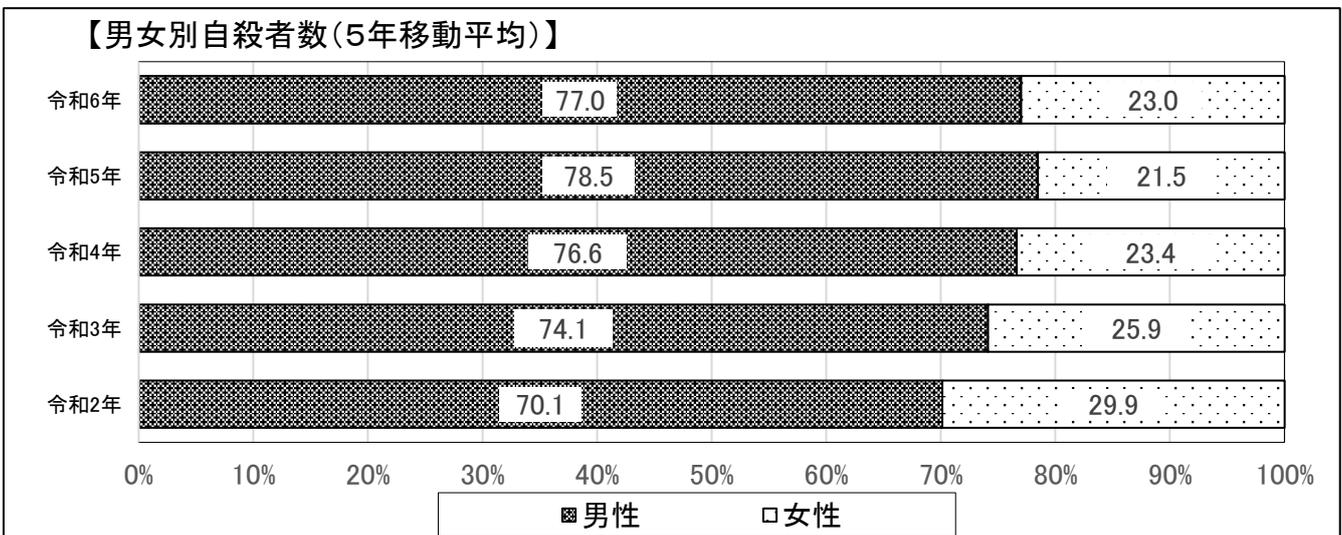
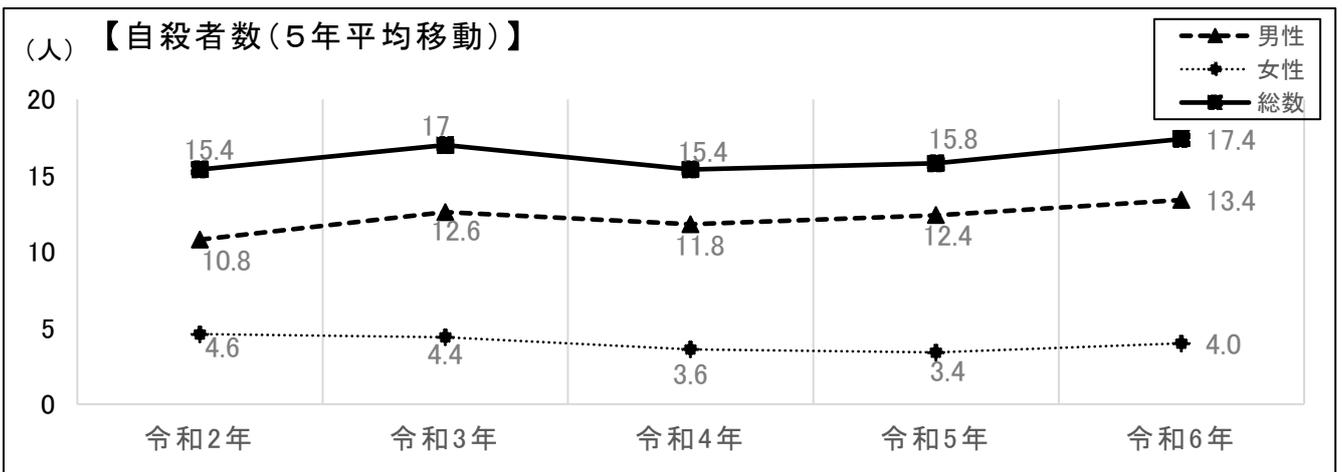
あま市の自殺に関する統計

(内閣府・厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」より)

1 自殺者数の推移

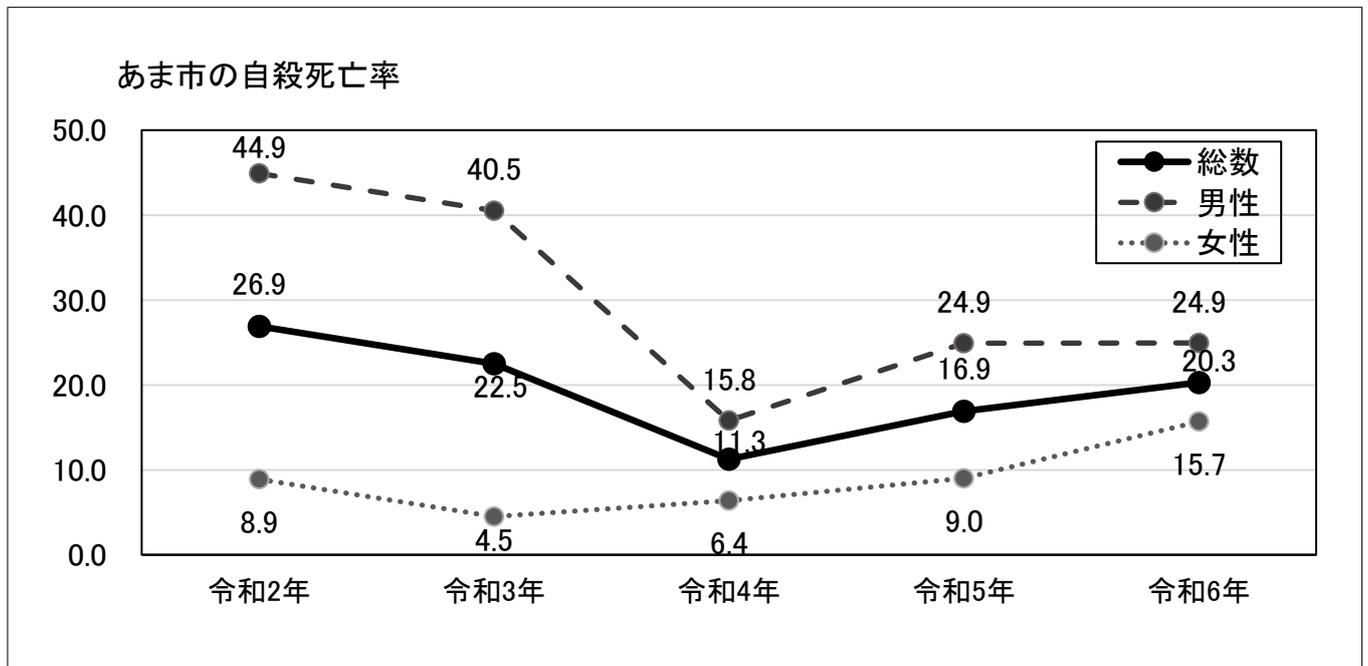


本市の自殺者数の推移は、令和2年には過去最高の24人、次いで令和3年も過去2番目の20人となっています。令和4年は、10人と減少しましたが、令和5年では15人と増加に転じています。令和6年も過去3番目の18人と増加傾向になっています。また、令和2年から令和6年までの平均の自殺者数は、総数17.4人で、そのうち男性が13.4人で女性4.0人の約3.4倍となっています。(警察庁「自殺統計」数値)

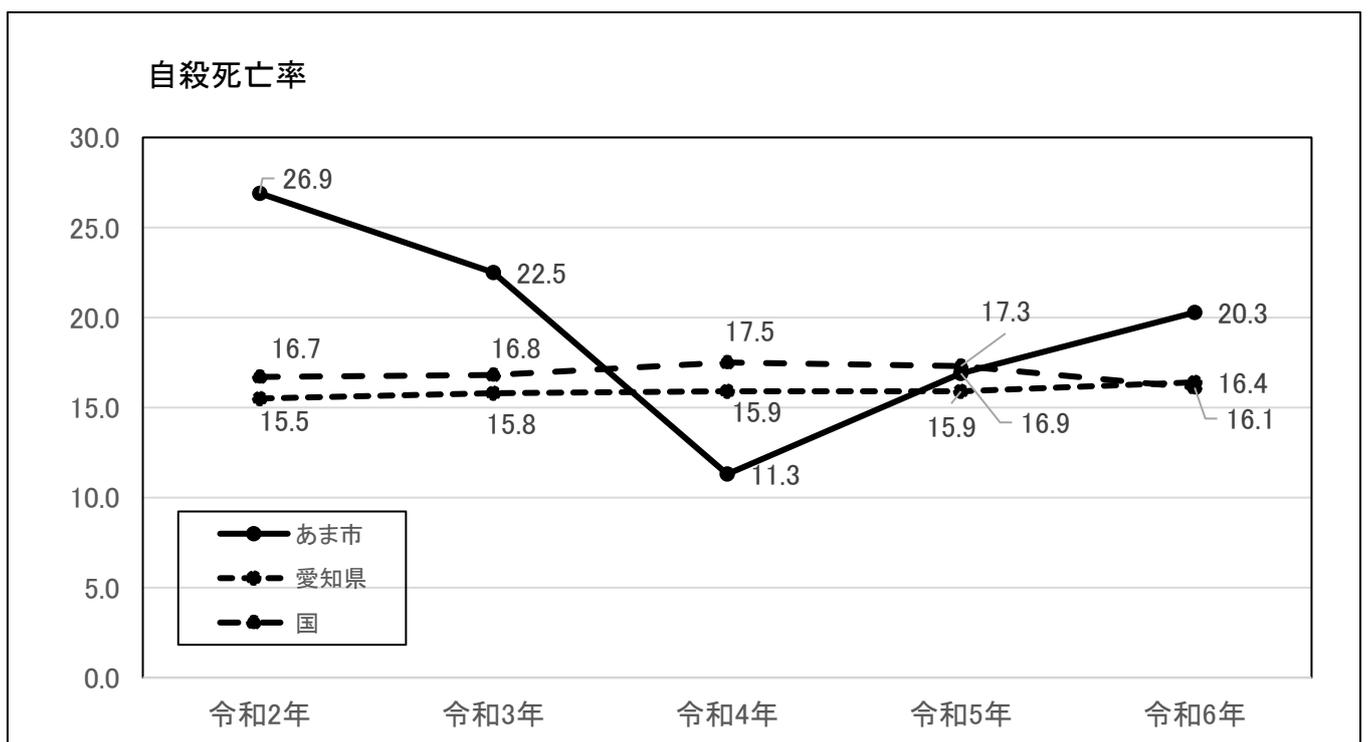


※移動平均とは、変化しているデータがある範囲の和をその個数で割り、その平均値をつなぎ合わせたもので、グラフにおいては、示されている年の過去5年間の和を5で割った平均値となっています。

2 自殺死亡率(人口 10 万人対)の推移



令和 6 年	【国】	全体	16.1	(男 22.4 女 10.1)
	【県】	全体	16.4	(男 22.3 女 10.5)
	【あま市】	全体	20.3	(男 24.9 女 15.7)



人口 10 万人対で算出した自殺死亡率の推移では、令和 2・3 年に高く、令和 4 年には減少に転じましたが令和 5 年で再度高くなっています。特に、令和 6 年では、女性の自殺死亡率が高くなっています。

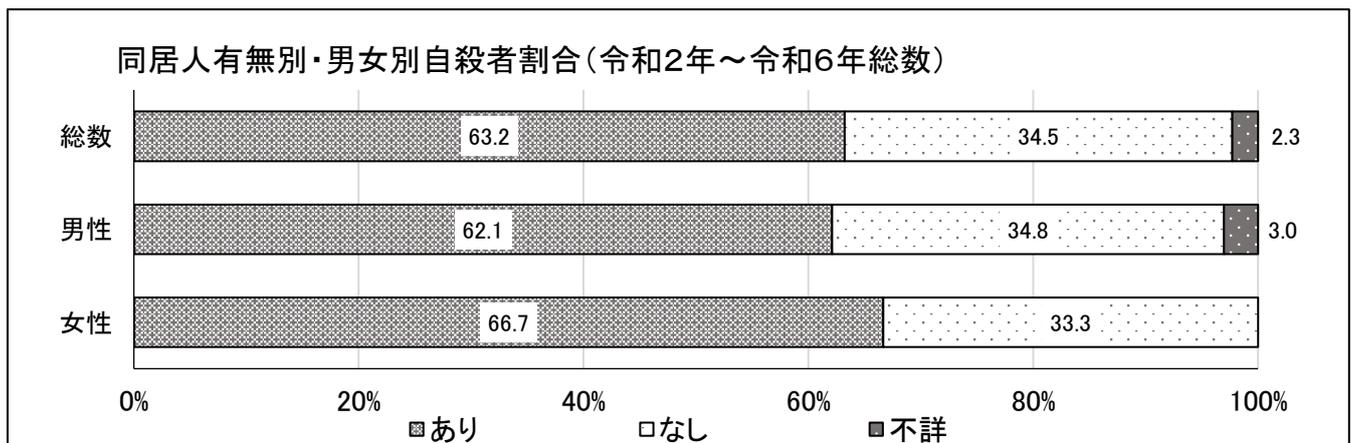
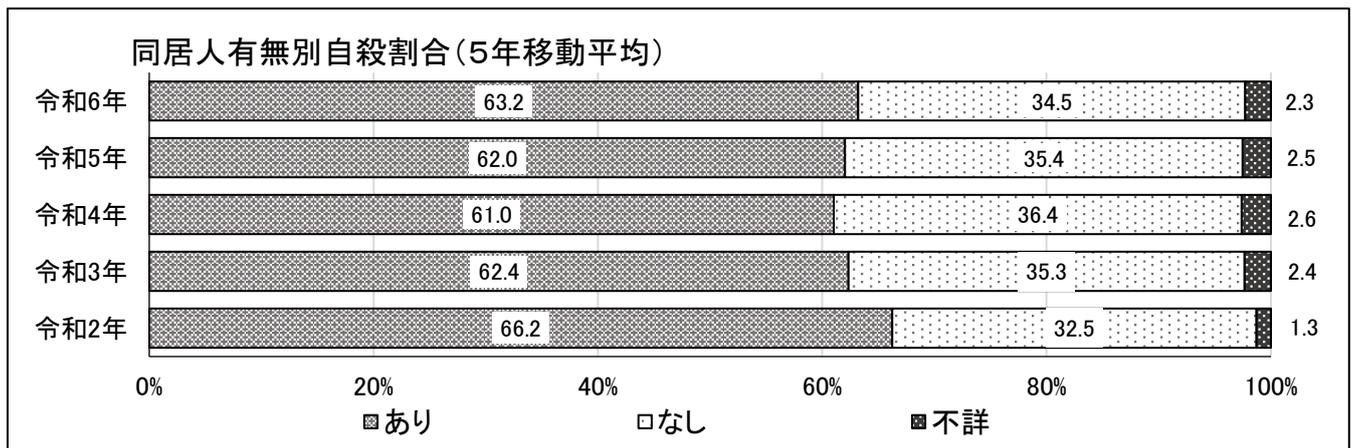
また、国・県の自殺死亡率と比較すると、令和 2・3 年は大きく上回っていましたが、令和 4 年には、国・県を下回っています。しかし、令和 5 年に増加に転じ、令和 6 年では、国・県を上回っています。

3 年代別自殺者数の推移

年代\年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
19歳以下	1	0	1	0	1
20歳代	4	1	2	2	2
30歳代	2	2	1	1	0
40歳代	4	3	1	4	3
50歳代	3	8	3	2	4
60歳代	3	0	0	2	0
70歳代	2	5	1	1	2
80歳以上	5	1	1	3	6
不詳	0	0	0	0	0
合計	24	20	10	15	18

働き盛りの年代である40・50歳代と60歳代以上の高齢者の自殺者数が多くなっています。
また、令和2・4・6年に19歳以下に1人ずつの自殺者がありました。

4 同居人有無別自殺者割合の推移

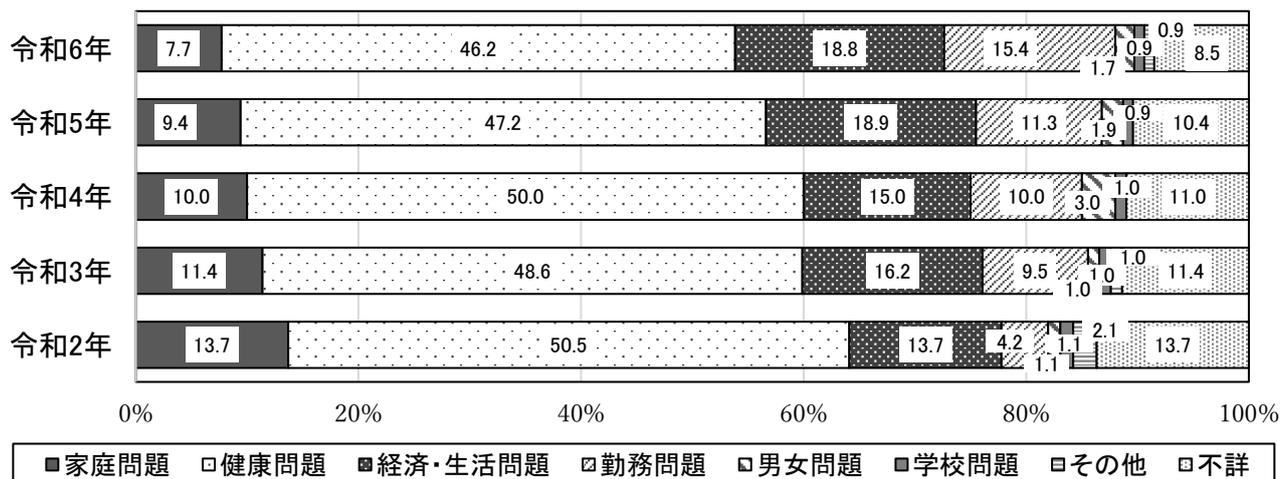


同居人有無別自殺者割合の推移は5年移動平均で、令和2年以降は6割が同居人「あり」で、少しずつ減少傾向にありましたが令和5年から少し増加しています。

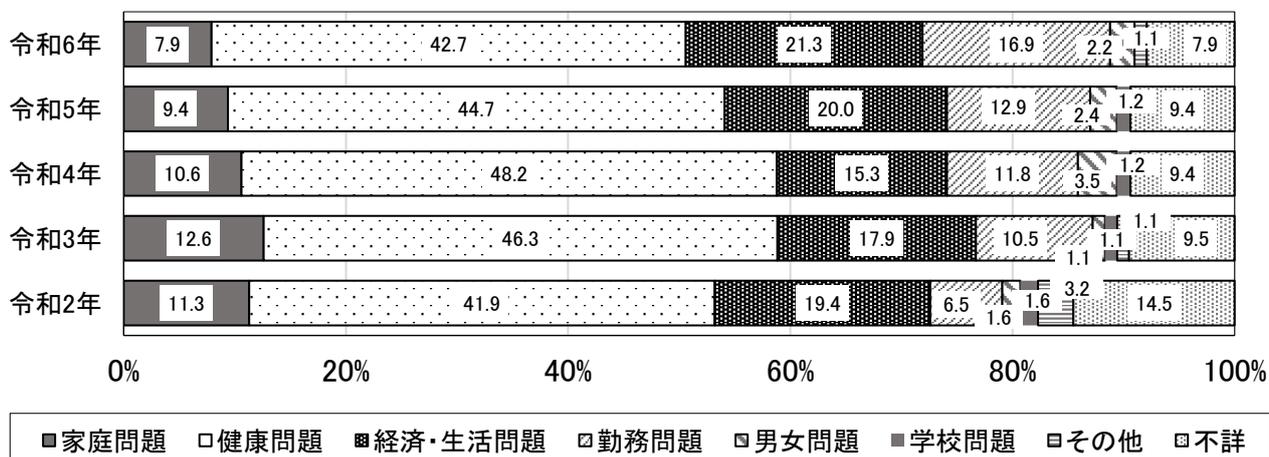
令和2年～令和5年総数の同居人有無別・男女別自殺者割合では、男性62.1%、女性66.7%が同居人「あり」であり、男性より女性が少し高くなっています。

5 原因別自殺者割合の推移

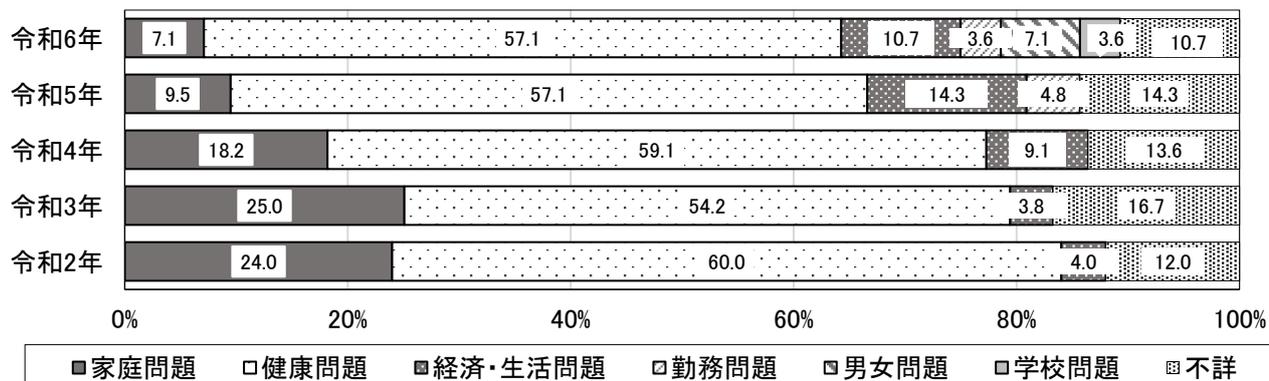
原因別自殺者割合(5年移動平均)【総数】



原因別自殺者割合(5年移動平均)【男性】



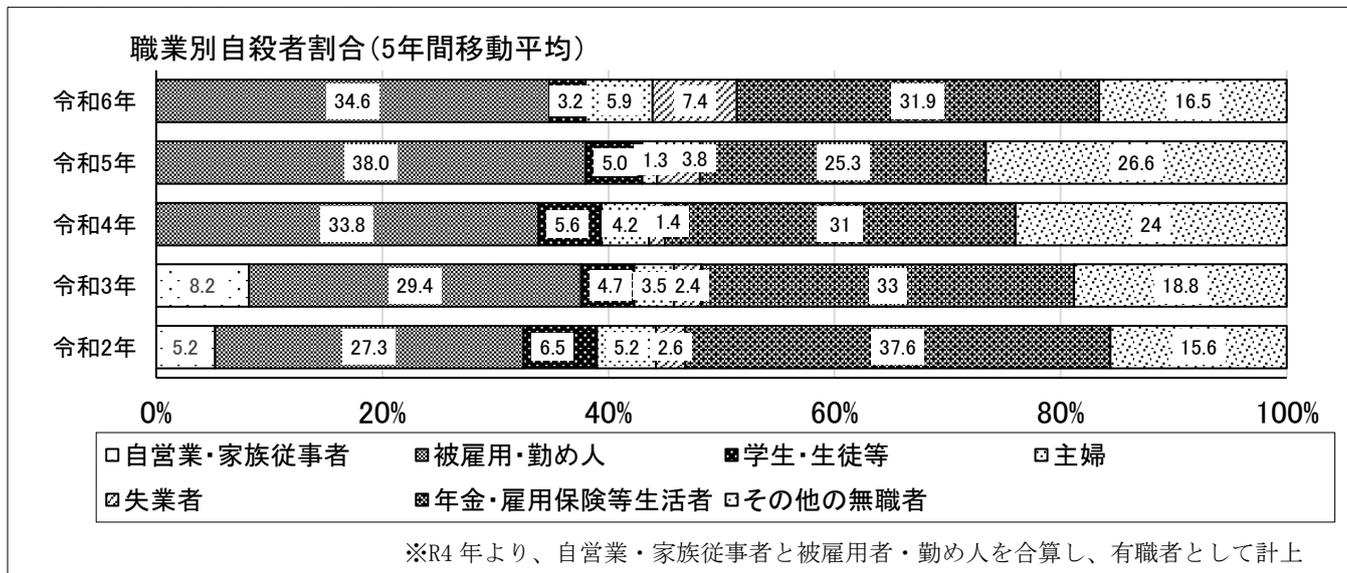
原因別自殺者割合(5年移動平均)【女性】



原因別自殺者割合では、「健康問題」の割合が毎年、高い状況であり、「家庭問題」と「経済・生活問題」と合わせて約70%を占めています。また、「勤務問題」の割合が高くなってきています。

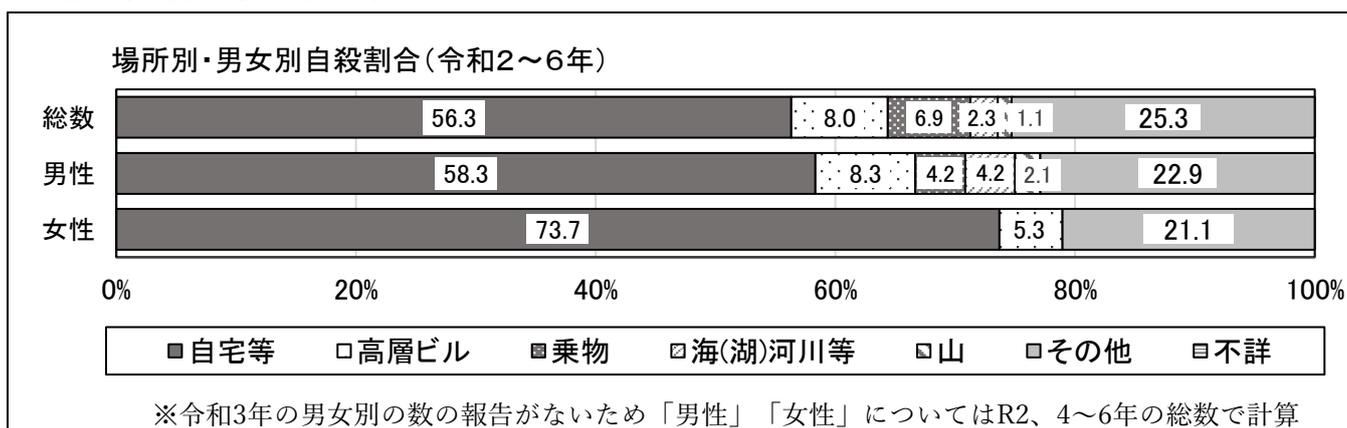
男性では「経済・生活問題」「勤務問題」が増加傾向、女性では令和6年に「経済・生活問題」が3.6ポイントの減少がみられ、「男女問題」が増加しています。

6 職業別自殺者割合の推移



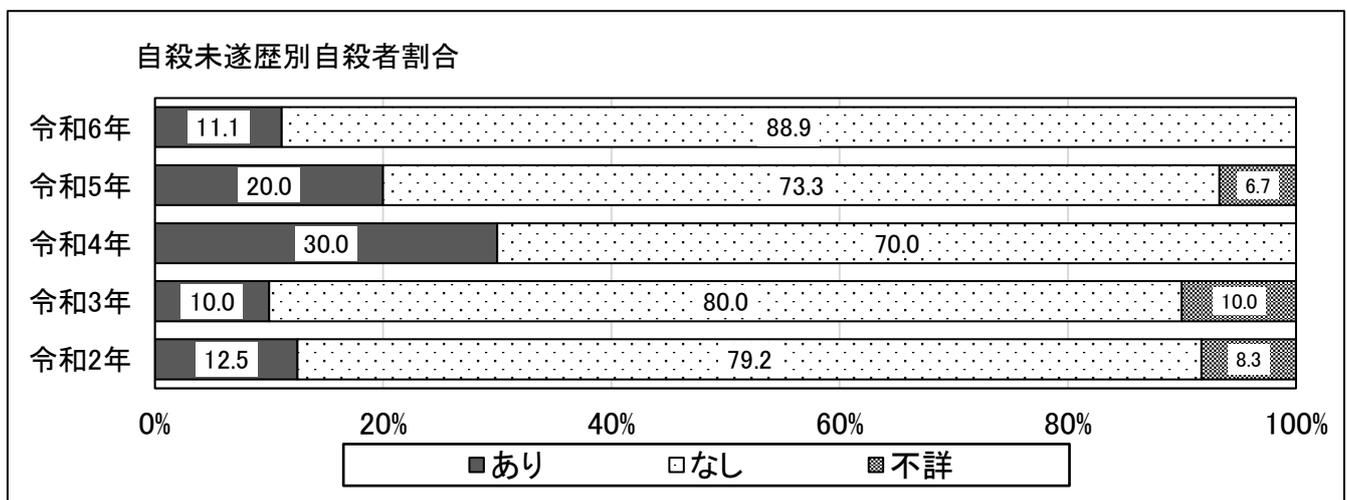
5年間で「被雇用・勤め人」の割合はほぼ横ばいとなっています。令和6年では「主婦」「失業者」の割合が少し増えています。また、「年金・雇用保険等生活者の割合が減少傾向にありましたが、令和6年では増加に転じています。

7 場所別・男女別自殺者割合



場所別自殺者割合では、「自宅等」の割合が半数以上を占めています。男女別では、男性より女性の方が「自宅等」の割合が高くなっています。

8 未遂歴別自殺者割合の推移



未遂歴別自殺者割合の推移では、毎年7割以上が「未遂歴なし」となっています。